

## 平成23年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

I. 各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(A～S)と組織標本(1～9)を選んで[ ]に記入しなさい。  
(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では足底に生じる割合が多い。この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる( )を行う場合がある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

2. 原因不明だが、紫外線、慢性刺激、ウイルス、とくに医療者では( )が関与し、腫瘍・潰瘍を生じる。進行すると悪臭を伴う。( )への転移も見られ、さらに肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

3. 皮膚癌手術の中では最も多い。多くは顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

4. 湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘍がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )と誤診されることがある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5. 短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと( )と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

II. ( )に適切な言葉を入れなさい。

1. 動脈性潰瘍の多くは( )に生じるが、これが閉塞性動脈硬化によって生じる場合と、末梢動脈血栓塞栓によって生じる場合の一番最初に行うべき鑑別方法は、( )である。

閉塞性動脈硬化の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、( )分類の( )度である。

2. 静脈性潰瘍の原因は1次性と2次性の( )が主なものであるが、1次性では( )や( )などの手術治療がある。また、1次性伏在型でない小さいものには( )を行う。2次性の主な原因には( )がある。

1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として( )がある。

3. 植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは全層植皮で、この植皮法には( )という長所があり、( )という短所がある。

もう1つの方法は分層植皮で、この長所は( )しやすいことである。しかし( )という短所がある。

3年生( )番 氏名( )